

# 基本計画書

基本計画										
事項	記入欄								備考	
計画の区分	研究科の設置									
フリガナ設置者	カッポリホジシ ヌツウカクエン 学校法人 日通学園									
フリガナ大学の名称	リョウツウケイジイガクダイガクイン 流通経済大学大学院 (Ryutsu Keizai University Graduate school)									
大学本部の位置	茨城県龍ケ崎市字平畑120番地									
大学の目的	本学は、教育基本法及び学校教育法に則り、広く知識を受け人格の陶冶に努めるとともに、広く専攻分野に関する学問を研究教授し、もって産業の交流と文化の発展に寄与すべき優秀な人材を養成することを目的とする。									
新設学部等の目的	地域における生涯スポーツ及び競技スポーツの推進に貢献できる高度の専門的知識・技能を有する人材を育成することを目的とする。									
新設学部等の概要	新設学部等の名称	修業年限	入学定員	編入学定員	収容定員	学位又は称号	開設時期及び開設年次	所在地		
	スポーツ健康科学研究科 〔Graduate school of Health & Sport Sciences〕 スポーツ科学専攻 〔Course of Sport Science〕	2年	10人	—年次人	20人	修士 (スポーツ科学)	平成22年4月 第1年次	茨城県龍ケ崎市 字平畑120番地		
	計	2	10	—	20					
同一設置者内における変更状況 (定員の移行、名称の変更等)	該当なし									
教育課程	新設学部等の名称	開設する授業科目の総数				卒業要件単位数				
	スポーツ健康科学研究科 スポーツ科学専攻	講義	演習	実習	計	30単位				
		29科目	16科目	0科目	45科目					
教員組織の概要	学部等の名称			専任教員等					兼任教員	
				教授	准教授	講師	助教	計	助手	
				人	人	人	人	人	人	
	新設	スポーツ健康科学研究科 スポーツ科学専攻 (修士課程)		5	7	0	0	12	0	13
				(5)	(7)	(0)	(0)	(12)	(0)	(13)
		計	5	7	0	0	12	0	13	
			(5)	(7)	(0)	(0)	(12)	(0)	(13)	
	既設	経済学研究科 経済学専攻 (修士課程)	16	2	0	0	18	0	0	
			(16)	(2)	(0)	(0)	(18)	(0)	(0)	
		経済学研究科 経済学専攻 (博士後期課程)	12	0	0	0	12	0	0	
			(12)	(0)	(0)	(0)	(12)	(0)	(0)	
		社会学研究科 社会学専攻 (修士課程)	13	1	0	0	14	0	0	
			(13)	(1)	(0)	(0)	(14)	(0)	(0)	
社会学研究科 社会学専攻 (博士後期課程)		10	0	0	0	10	0	0		
	(10)	(0)	(0)	(0)	(10)	(0)	(0)			
分	物流情報学研究科 物流情報学専攻 (修士課程)	15	0	0	0	15	0	1		
		(15)	(0)	(0)	(0)	(15)	(0)	(1)		
	物流情報学研究科 物流情報学専攻 (博士後期課程)	9	0	0	0	9	0	1		
	(9)	(0)	(0)	(0)	(9)	(0)	(1)			
要	法学研究科 リーガルガバナンス専攻 (修士課程)	12	3	0	0	15	0	2		
		(12)	(3)	(0)	(0)	(15)	(0)	(2)		
	計	87	6	0	0	93	0	4		
		(87)	(6)	(0)	(0)	(93)	(0)	(4)		
	合計	92	13	0	0	105	0	17		
		(92)	(13)	(0)	(0)	(105)	(0)	(17)		
教員以外の職員の概要	職種		専任		兼任		計			
	事務職員	79人	27人		106人					
		(79)	(27)		(106)					
	技術職員	2	0		2					
		(2)	(0)		(2)					
図書館専門職員	4	4		8						
	(4)	(4)		(8)						
その他の職員	6	0		6						
	(6)	(0)		(6)						
	計	91	31		122					
		(91)	(31)		(122)					
								大学全体		

校 地 等	区 分	専 用	共 用	共用する他の 学校等の専用	計		龍ヶ崎校地全体		
	校 舎 敷 地	94,954.99 m <sup>2</sup>	— m <sup>2</sup>	— m <sup>2</sup>	94,954.99 m <sup>2</sup>				
	運 動 場 用 地	35,022.66 m <sup>2</sup>	— m <sup>2</sup>	— m <sup>2</sup>	35,022.66 m <sup>2</sup>				
	小 計	129,977.65 m <sup>2</sup>	— m <sup>2</sup>	— m <sup>2</sup>	129,977.65 m <sup>2</sup>				
	そ の 他	8,230.00 m <sup>2</sup>	— m <sup>2</sup>	— m <sup>2</sup>	8,230.00 m <sup>2</sup>				
	合 計	138,207.65 m <sup>2</sup>	— m <sup>2</sup>	— m <sup>2</sup>	138,207.65 m <sup>2</sup>				
校 舎		専 用	共 用	共用する他の 学校等の専用	計		龍ヶ崎校地全体		
		34,663.65 m <sup>2</sup> ( 34,663.65 m <sup>2</sup> )	— m <sup>2</sup> ( — m <sup>2</sup> )	— m <sup>2</sup> ( — m <sup>2</sup> )	34,663.65 m <sup>2</sup> ( 34,663.65 m <sup>2</sup> )				
教室等	講義室	演習室	実験実習室	情報処理学習施設	語学学習施設		龍ヶ崎校地全体		
	29 室	33 室	6 室	9 室 (補助職員 3人)	22 室 (補助職員 2人)				
専 任 教 員 研 究 室		新設学部等の名称		室 数		申請研究科全体			
		スポーツ健康科学研究科		12 室					
図 書 ・ 設 備	新設学部等の名称	図書 〔うち外国書〕 冊	学術雑誌 〔うち外国書〕 種	電子ジャーナル 〔うち外国書〕 種	視聴覚資料 点	機械・器具 点	標本 点	申請研究科全体	
	スポーツ健康科学 研究科	32,738 [7,482] (32,738 [7,482])	38 [6] (38 [6])	2 [1] (2 [1])	240 (240)	2,398 (1,135)	0 (0)		
	計	32,738 [7,482] (32,738 [7,482])	38 [6] (38 [6])	2 [1] (2 [1])	240 (240)	2,398 (1,135)	0 (0)		
図 書 館		面積	閲覧座席数		収 納 可 能 冊 数		龍ヶ崎校地全体		
		4,198.89m <sup>2</sup>	600		336,250				
体 育 館		面積	体育館以外のスポーツ施設の概要					龍ヶ崎校地全体	
		5,850.22m <sup>2</sup>	スポーツ健康センター(プール, トレーニングルーム, エアロビスタジオ)4,982.44m <sup>2</sup> , 柔剣道場871.55m <sup>2</sup> , 多目的室内練習場1,701.01m <sup>2</sup>						
経 費 の 見 積 り 及 び 維 持 方 法 の 概 要	区 分	開設前年度	第1年次	第2年次	第3年次	第4年次	第5年次	第6年次	申請研究科全体
	経費の見積り								
	教員1人当り研究費等		670千円	670千円	— 千円	— 千円	— 千円	— 千円	
	共同研究費等		3,000千円	3,000千円	— 千円	— 千円	— 千円	— 千円	
	図書購入費	2,090千円	1,800千円	1,800千円	— 千円	— 千円	— 千円	— 千円	
	設備購入費	3,614千円	1,000千円	1,000千円	— 千円	— 千円	— 千円	— 千円	
	学生1人当り 納付金	第1年次	第2年次	第3年次	第4年次	第5年次	第6年次		
	852千円	713千円	— 千円	— 千円	— 千円	— 千円			
学生納付金以外の維持方法の概要		学校法人の資産運用収入をもって充当する。							
大 学 の 名 称		流通経済大学							
既 設 大 学 等 の 状 況	学 部 等 の 名 称	修業 年限	入学 定員	編入学 定員	収容 定員	学位又 は称号	定員 超過率	開設 年度	所 在 地
	経済学部	年	人	年次 人	人		倍		茨城県龍ヶ崎市 字平畑120番地
	経済学科	4	250		1000	学士(経済学)	1.13	昭和40年度	
	経営学科	4	150		600	学士(経営学)	1.21	昭和45年度	
	社会学部								
	社会学科	4	150		600	学士(社会学)	1.06	昭和63年度	
	国際観光学科	4	120	3年次20	520	学士(社会学)	1.05	平成5年度	
	流通情報学部								
	流通情報学科	4	160	2年次20 3年次10	720	学士 (流通情報学)	1.08	平成8年度	
	法学部								
	ビジネス法学科	4	100	3年次10	420	学士(法学)	1.12	平成13年度	
	自治行政学科	4	100	3年次10	420	学士(法学)	1.12	平成13年度	
	スポーツ健康科学部								
	スポーツ健康科学科	4	200		800	学士 (スポーツ健康科学)	1.25	平成18年度	
	経済学研究科								
経済学専攻	2 3	10 5		20 15	修士(経済学) 博士(経済学)	0.60 0.06	平成元年度 平成3年度		
社会学研究科									
社会学専攻	2 3	10 5		20 15	修士(社会学) 博士(社会学)	0.75 0.53	平成4年度 平成6年度		
物流情報学研究科									
物流情報学専攻	2 3	20 5		40 15	修士(物流情報学) 博士(物流情報学)	0.90 0.13	平成12年度 平成14年度		
法学研究科									
リーガルガバナンス専攻	2	10		20	修士(法学)	0.75	平成17年度		
附属施設の概要		湯の丸セナハウス 長野県小県郡東部町 昭和52年10月 578m <sup>2</sup> 山中湖セナハウス 山梨県南都留郡山中湖村 平成10年11月 694m <sup>2</sup>							

教育課程等の概要												
(大学院スポーツ健康科学研究科 スポーツ科学専攻)												
科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数		授業形態		専任教員等配置				備考	
			必修科目	選択科目	講義	演習	教授	准教授	講師	助手		
共通科目	スポーツプロモーション特講	1前	2		○		3					オムニバス
	研究方法演習 I	1前	2			○	5	3			研究指導担当教員	オムニバス
	研究方法演習 II	1後	2			○	5	3			研究指導担当教員	個別授業
	研究指導	2前・後	0			○	5	3			研究指導担当教員	個別授業
	生涯スポーツ企画・運営法演習	1・2前		1		○	1					
	スポーツネットワーク運営法演習	1・2後		1		○		1				
	コミュニケーション法演習	1・2後		1		○		1				
	子どもスポーツ指導法演習	1・2前		1		○		1				
	中高齢者スポーツ指導法演習	1・2後		1		○		1				
	競技スポーツ企画・運営法演習	1・2前		1		○					非常勤1	
	スポーツコーチング法演習	1・2後		1		○	1					
	技術トレーニング法演習	1・2前		1		○		1				
	戦術トレーニング法演習	1・2後		1		○	1					
	体力トレーニング法演習	1・2前		1		○	1					
	スポーツ救急教育法演習	1・2前		1		○	1					
	スポーツコンディショニング法演習	1・2後		1		○		1				
	アスレティックケア法演習	1・2前		1		○		1				
小計 (17科目)		-	6	13	-	23	16	0	0			

科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数		授業形態		専任教員等配置				備考	
			必修科目	選択科目	講義	演習	教授	准教授	講師	助手		
専門科目・生涯スポーツ領域科目	A群	スポーツ文化論特講	1・2前	2	○			1				
		スポーツ教育論特講	1・2前	2	○			1				
		健康社会論特講	1・2前	2	○						非常勤1	
	B群	スポーツマネジメント論特講	1・2前	2	○		1					
		スポーツ行財政論特講	1・2前	2	○		1					
		ヘルスマネジメント論特講	1・2後	2	○						非常勤1	
	C群	スポーツ産業論特講	1・2前	2	○						非常勤1	
		スポーツNPO組織・運営論特講	1・2後	2	○						非常勤1	
	D群	レクリエーションスポーツ論特講	1・2前	2	○						非常勤1	
		コミュニケーション論特講	1・2前	2	○			1				
		セルフコントロール論特講	1・2後	2	○						非常勤1	
	E群	子どもスポーツ論特講	1・2前	2	○		1	1				2人担当
		中高齢者スポーツ論特講	1・2前	2	○			1				
		障害者スポーツ論特講	1・2前	2	○						非常勤1	
	小計（14科目）	-	0	28	-		3	5	0	0	非常勤6	
専門科目・競技スポーツ領域科目	A群	フェアプレイ論特講	1・2後	2	○						非常勤1	
		スポーツ組織・運営論特講	1・2前	2	○						非常勤1	
		スポーツ情報・戦略論特講	1・2前	2	○						非常勤1	
	B群	スポーツコーチング論特講	1・2前	2	○		1					
		スポーツトレーニング論特講	1・2後	2	○						非常勤1	
	C群	運動質論特講	1・2前	2	○						非常勤1	
		スポーツ技術論特講	1・2前	2	○			1				
		スポーツ戦術論特講	1・2前	2	○		1					
	D群	スポーツ体力論特講	1・2前	2	○		1					
		スポーツ心理論特講	1・2前	2	○						非常勤1	
		スポーツ栄養論特講	1・2後	2	○						非常勤1	
	E群	スポーツ救急教育論特講	1・2前	2	○		1					
		スポーツコンディショニング論特講	1・2前	2	○			1				
		アスレティックケア論特講	1・2前	2	○			1				
	小計（14科目）	-	0	28	-		4	3	0	0	非常勤6	
	合計（45科目）	-	6	69	-		30	24	0	0	非常勤12	
学位又は称号		修士(スポーツ科学)				学位又は専攻の分野				体育関係		
修了要件及び履修方法										授業期間等		
2年以上在学し、共通科目10単位以上（必修6単位、選択4単位以上）、所属する領域の専門科目・領域科目（選択）の各群から2単位以上計14単位以上、専門科目・他領域科目6単位以上を修得し、合計30単位以上を修得すること、及び必要な研究指導を受けた上、修士論文の審査及び試験に合格すること。										1学年の学期区分	2学期	
										1学期の授業期間	15週	
										1時限の授業時間	90分	

様式第2号(その2の1)

教育課程等の概要																								
(基礎となる学部：スポーツ健康科学部 スポーツ健康科学科)																								
科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			専任教員配置					備考										
			必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手											
教養科目	現代社会をどう見るか	1・2・3		2		○				1														
	ヒトと環境との関係を考える	1・2・3		2		○																兼 1		
	社会の制度を知る	1・2・3		2		○																	兼 1	
	過去を知り現代へつなぐ	1・2・3		2		○																	兼 1	
	文化を通して心を耕す	1・2・3		2		○				1														
	世界を知り自己へつなぐ	1・2・3		2		○																	兼 1	
	人の心の発達を知る	1・2・3		2		○																	兼 1	
	人間形成について考える	1・2・3		2		○																	兼 1	
	人の一生とスポーツ	1・2・3		2		○				1														
	自然とともに生きる	1・2・3		2		○																		兼 1
	ものごとの構造を論理的につかむ	1・2・3		2		○																		兼 1
	憲法Ⅰ	1・2・3		2		○																		兼 1
	憲法Ⅱ	1・2・3		2		○																		兼 1
	現代文章論Ⅰ	1・2・3		2		○																		兼 1
	現代文章論Ⅱ	1・2・3		2		○																		兼 1
	総合教養講座Ⅰ	3・4		2		○																		兼 1
	総合教養講座Ⅱ	3・4		2		○																		兼 1
	外国語演習Ⅰ	3・4		2		○																		兼 1
	外国語演習Ⅱ	3・4		2		○																		兼 1
	外国語講読Ⅰ	3・4		2		○																		兼 1
	外国語講読Ⅱ	3・4		2		○																		兼 1
	日本の現在	1・2・3		2		○																		兼 1
	日本の思想	1・2・3		2		○																		兼 1
	日本事情	1・2・3		2		○																		兼 1
	日本語講読Ⅰ	3・4		2		○																		兼 1
	日本語講読Ⅱ	3・4		2		○																		兼 1
小計(26科目)		—	0	52	0					2	1	0	0	0									兼 23	
情報科目	情報基礎Ⅰ	1		2		○				1														
	情報基礎Ⅱ	1		2		○				1														
	小計(2科目)		—	0	4	0				2	0	0	0	0									兼 0	
外国語科目	英語AⅠ	1		1		○				2													兼 22	
	英語AⅡ	1		1		○				2													兼 22	
	ドイツ語AⅠ	1		1		○																	兼 5	
	ドイツ語AⅡ	1		1		○																	兼 5	
	フランス語AⅠ	1		1		○																	兼 4	
	フランス語AⅡ	1		1		○																	兼 4	
	スペイン語AⅠ	1		1		○																	兼 3	
	スペイン語AⅡ	1		1		○																	兼 3	
	朝鮮(韓国語)AⅠ	1		1		○																	兼 2	
	朝鮮(韓国語)AⅡ	1		1		○																	兼 2	
	中国語AⅠ	1		1		○																	兼 7	
	中国語AⅡ	1		1		○																	兼 7	
	ブラジル・ポルトガル語AⅠ	1		1		○																	兼 1	
	ブラジル・ポルトガル語AⅡ	1		1		○																	兼 1	
	英語BⅠ	1		1		○				2													兼 22	
	英語BⅡ	1		1		○				2													兼 22	
	ドイツ語BⅠ	1		1		○																	兼 5	
	ドイツ語BⅡ	1		1		○																	兼 5	
	フランス語BⅠ	1		1		○																	兼 4	
	フランス語BⅡ	1		1		○																	兼 4	
	スペイン語BⅠ	1		1		○																	兼 3	
	スペイン語BⅡ	1		1		○																	兼 3	
	朝鮮(韓国語)BⅠ	1		1		○																	兼 2	
	朝鮮(韓国語)BⅡ	1		1		○																	兼 2	
	中国語BⅠ	1		1		○																	兼 7	
	中国語BⅡ	1		1		○																	兼 7	
	ブラジル・ポルトガル語BⅠ	1		1		○																	兼 1	
	ブラジル・ポルトガル語BⅡ	1		1		○																	兼 1	
	英語CⅠ	2		1		○				2														兼 22
	英語CⅡ	2		1		○				2														兼 22
	ドイツ語CⅠ	2		1		○																		兼 5
	ドイツ語CⅡ	2		1		○																		兼 5
	フランス語CⅠ	2		1		○																		兼 4
	フランス語CⅡ	2		1		○																		兼 4
スペイン語CⅠ	2		1		○																		兼 3	
スペイン語CⅡ	2		1		○																		兼 3	

科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			専任教員配置					備考		
			必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手			
	朝鮮(韓国語)C I	2		1		○								兼	2	
	朝鮮(韓国語)C II	2		1		○								兼	2	
	中国語C I	2		1		○								兼	7	
	中国語C II	2		1		○								兼	7	
	ブラジル・ボルトガル語C I	2		1		○								兼	1	
	ブラジル・ボルトガル語C II	2		1		○								兼	1	
	英語D I	2		1		○			2					兼	22	
	英語D II	2		1		○			2					兼	22	
	ドイツ語D I	2		1		○								兼	5	
	ドイツ語D II	2		1		○								兼	5	
	フランス語D I	2		1		○								兼	4	
	フランス語D II	2		1		○								兼	4	
	スペイン語D I	2		1		○								兼	3	
	スペイン語D II	2		1		○								兼	3	
	朝鮮(韓国語)D I	2		1		○								兼	2	
	朝鮮(韓国語)D II	2		1		○								兼	2	
	中国語D I	2		1		○								兼	7	
	中国語D II	2		1		○								兼	7	
	ブラジル・ボルトガル語D I	2		1		○								兼	1	
	ブラジル・ボルトガル語D II	2		1		○								兼	1	
	日本語A I	1		1		○								兼	4	
	日本語A II	1		1		○								兼	4	
	日本語B I	1		1		○								兼	4	
	日本語B II	1		1		○								兼	4	
	日本語C I	2		1		○								兼	4	
	日本語C II	2		1		○								兼	4	
	日本語D I	2		1		○								兼	4	
	日本語D II	2		1		○								兼	4	
	海外研修	3・4		2				○	1							
	小計(65科目)	—	0	66	0	—			17	0	0	0	0	兼	384	
演習	教養総合演習 I	1		4				○	10	5	4					
	教養総合演習 II	2		4				○	11	5	6					
	専門演習 I	3		4				○	10	5	6					
	専門演習 II	4		4				○	10	5	6					
	小計(4科目)	—	0	16	0	—			41	20	22	0	0	兼	0	
必修科目	スポーツ健康科学概論	1	2			○			1							
	機能解剖学	1	2			○			1					兼	1	私ニパス
	スポーツ救急教育概論	1	2			○				1						
	スポーツ教育学	1	2			○								兼	1	
	スポーツ生理学	2	2			○						1		兼	1	
	スポーツマネジメント論	2	2			○						1				
	スポーツ人類学	2	2			○				1						
	スポーツ救急及び実習 I (救急処置)	2	2					○			2			兼	1	
	小計(8科目)	—	16	0	0	—			2	2	3	0	0	兼	4	
スポーツ実技科目	体操(器械運動・集団行動を含む)	1		1				○						兼	2	
	陸上競技	1		1				○		1				兼	1	
	水泳	1		1				○			1					
	野球・ソフトボール	1		1				○						兼	1	
	サッカー	1		1				○						兼	2	
	ラグビー	1		1				○	1							
	アメリカンフットボール	1		1				○			1					
	テニス	1		1				○						兼	1	
	バスケットボール	1		1				○	1							
	バレーボール	1		1				○						兼	1	
	バドミントン	1		1				○						兼	1	
	卓球	1		1				○						兼	1	
	柔道	1		1				○	1							
	剣道	1		1				○						兼	1	
	ダンス	1		1				○						兼	1	
	エアロビックダンス	1・2		1				○						兼	1	
	水泳・水中運動	1・2		1				○		1	1					
	スポーツ方法実習	1・2		1				○		1						
	海浜実習	1		1				○				1				
	小計(19科目)	—	1	18	0	—			3	3	4	0	0	兼	13	
	スポーツ哲学	1・2・3		2		○								兼	1	
	スポーツ史	1・2・3		2		○				1						
	スポーツ社会学	1・2・3		2		○								兼	1	
	コーチ学	1・2・3		2		○			2							
	発育・発達論	1・2・3		2		○								兼	1	
	スポーツと栄養 I	1・2・3		2		○								兼	1	
	スポーツと栄養 II	1・2・3		2		○								兼	1	

科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			専任教員配置					備考			
			必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手				
共通科目	スポーツトレーニング論	1・2・3		2		○					1				兼	1	
	スポーツ運動学	1・2・3		2		○									兼	1	
	スポーツ行政学	2・3・4		2		○									兼	1	
	スポーツ心理学	2・3・4		2		○									兼	1	
	スポーツと法	2・3・4		2		○									兼	1	
	運動処方論	2・3・4		2		○					1						
	健康教育学	2・3・4		2		○									兼	1	
	野外教育とスポーツ	2・3・4		2		○				1							
	スポーツ情報分析論Ⅰ	2・3・4		2		○				1							
	スポーツバイオメカニクス	2・3・4		2		○									兼	1	
	測定評価学	2・3・4		2		○									兼	1	
	スポーツ医学Ⅰ	2・3・4		2		○				1							
	スポーツ医学Ⅱ	2・3・4		2		○									兼	1	
	スポーツ外傷・障害と予防	2・3・4		2		○									兼	1	
	テーピング論（実習を含む）	2・3・4		2		○									兼	1	
	衛生・公衆衛生学（運動衛生学を含む）	2・3・4		2		○									兼	1	
	マッサージ論（実習を含む）	2・3・4		2		○									兼	1	
	小計（24科目）	—	—	0	48	0	—	—	—	4	2	2	0	0	兼	17	
	スポーツコーチングコース	コンデショニング論	1・2・3		2		○					1					
		メンタルトレーニング論	2・3・4		2		○									兼	1
		スポーツ技術・戦術論	2・3・4		2		○									兼	1
		スポーツ情報分析論Ⅱ	2・3・4		2		○									兼	1
		レクリエーション論	1・2・3		2		○									兼	1
		リハビリテーション論	2・3・4		2		○					1					
スポーツコーチング論Ⅰ		2・3・4		2		○				1							
スポーツコーチング論Ⅱ		2・3・4		2		○									兼	1	
スポーツコーチング論Ⅲ		2・3・4		2		○									兼	1	
スポーツトレーニング実習		2・3		1				○			1	1					
レクリエーション実習		2・3		1				○					1		兼	1	
コンデショニング実習		2・3		1				○				1			兼	1	
測定評価実習		3・4		1				○							兼	1	
リハビリテーション実習		3・4		1				○				1					
スポーツコーチング実習（インターンシップ）		3・4		1				○		1							
体操（器械運動）コーチング		2・3		1				○							兼	1	
陸上競技コーチング		2・3		1				○			1						
水泳コーチング		2・3		1				○				1					
野球・ソフトボールコーチング		2・3		1				○							兼	1	
サッカーコーチング		2・3		1				○							兼	1	
ラグビーコーチング		2・3		1				○		1							
アメリカンフットボールコーチング		2・3		1				○				1					
テニスコーチング		2・3		1				○							兼	1	
バスケットボールコーチング		2・3		1				○		1							
バレーボールコーチング		2・3		1				○							兼	1	
バドミントンコーチング		2・3		1				○							兼	1	
卓球コーチング		2・3		1				○							兼	1	
柔道コーチング	2・3		1				○		1								
剣道コーチング	2・3		1				○							兼	1		
ダンスコーチング	2・3		1				○							兼	1		
スポーツ救命・トレーナーコース	ウェルネス概論	1・2・3		2		○			1								
	健康づくりと運動プログラム	1・2・3		2		○									兼	1	
	健康管理論	2・3・4		2		○			1						兼	1	
	スポーツ救急及び実習Ⅱ（救命処置）	2・3・4		2		○				1	1						
	スポーツ・ボランティア論	2・3・4		2		○					1						
	レクリエーション論	1・2・3		2		○									兼	1	
	高齢者スポーツ論	2・3・4		2		○			1								
	障害者スポーツ論	2・3・4		2		○									兼	1	
	スポーツ・カウンセリング論（実習を含む）	2・3・4		2		○									兼	1	
	ストレッチング論（実習を含む）	2・3・4		2		○									兼	1	
	エアロビック運動の理論	2・3・4		2		○									兼	1	
	野外方法Ⅰ（海洋スポーツ）	3・4		1				○			1						
	野外方法Ⅱ（山野スポーツ）	3・4		1				○			1						
	ライフセービング実習Ⅰ	3・4		1				○				1					
	ライフセービング実習Ⅱ	3・4		1				○				1					
	スポーツトレーニング実習	2・3		1				○			1	1					
	レクリエーション実習	2・3		1				○							兼	1	
	コンデショニング実習	2・3		1				○				1					
	測定評価実習	3・4		1				○							兼	1	
	リハビリテーション実習	3・4		1				○				1					
スポーツ救命・トレーナー実習（インターンシップ）	3・4		1				○				1						
スポーツトレーナー研究Ⅰ	2・3		1				○							兼	1		
スポーツトレーナー研究Ⅱ	2・3		1				○		1								

科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			専任教員配置					備考		
			必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手			
	スポーツトレーナー研究Ⅲ	2・3		1				○	1							
スポーツ マネ ジメン ト コー ス	スポーツメディア論	1・2・3		2		○									兼	1
	マスコミュニケーション論	1・2・3		2		○									兼	1
	スポーツ産業論	2・3・4		2		○									兼	1
	スポーツ経営学	2・3・4		2		○									兼	1
	健康づくりとジョギング	1・2・3		2		○									兼	1
	スポーツと余暇	1・2・3		2		○			1							
	スポーツ情報分析論Ⅱ	2・3・4		2		○									兼	1
	スポーツとコミュニケーション	2・3・4		2		○									兼	1
	国際スポーツ事情	2・3・4		2		○					1					
	スポーツ文化論	2・3・4		2		○				1						
	スポーツジャーナリズム論	2・3・4		2		○									兼	1
	スポーツ施設論	2・3・4		2		○									兼	1
	スポーツと地域貢献	2・3・4		2		○									兼	1
	スポーツと経済	2・3・4		2		○			1							
	スポーツ統計学	2・3・4		2		○									兼	1
	スポーツ・ジェンダー論(スポーツと女性)	2・3・4		2		○									兼	1
	スポーツ・フィールドワーク論	3・4		2		○				1						
	レジャー産業論	3・4		2		○			1							
	スポーツマネジメント研究Ⅰ	3・4		2		○									兼	1
	スポーツマネジメント研究Ⅱ	3・4		2		○									兼	1
	スポーツトレーニング実習	2・3		1				○		1	1					
	レクリエーション実習	2・3		1				○				1			兼	1
	コンデショニング実習	2・3		1				○				1				
測定評価実習	3・4		1				○							兼	1	
リハビリテーション実習	3・4		1				○				1					
スポーツマネジメント実習(インターンシップ)	3・4		1				○				1					
スポーツマネジメント方法Ⅰ	3・4		1				○		1							
スポーツマネジメント方法Ⅱ	3・4		1				○			1						
スポ ーツ 教 育 コー ス	教育原理	1		2		○					1					
	教育社会学概論	1		2		○						1			兼	1
	教師論	1		2		○						1			兼	1
	安全教育(学校安全を含む)	1		2		○										
	教育史	1		2		○					1					
	教育課程論	2		2		○									兼	1
	保健体育科教育法Ⅰ	3		2		○									兼	1
	保健体育科教育法Ⅱ	3		2		○									兼	1
	教職特論演習Ⅰ	3		2				○							兼	1
	教職特論演習Ⅱ	3		2				○							兼	1
	教職特論演習Ⅲ	4		2				○		1						
	教職総合演習	3		2				○		1						
	道徳教育の研究	1		2		○									兼	1
	教育心理学	1		2		○									兼	1
	教育相談	2		2		○									兼	1
	精神保健学	2		2		○									兼	1
	学校保健学	2		2		○									兼	1
	生徒指導の研究	2		2		○									兼	1
	特別活動の研究	2		2		○									兼	1
	教育方法学	3		2		○					1					
	スポーツトレーニング実習	2・3		1				○		1	1					
	レクリエーション実習	2・3		1				○				1			兼	1
	コンデショニング実習	2・3		1				○				1				
測定評価実習	3・4		1				○							兼	1	
リハビリテーション実習	3・4		1				○				1					
スポーツ教育学実習(インターンシップ)	3・4		1				○		1							
スポーツ教材研究Ⅰ	3・4		1				○		1	1						
スポーツ教材研究Ⅱ	3・4		1				○		1							
スポーツ教材研究Ⅲ	3・4		1				○		1		1					
スポーツ教材研究Ⅳ	3・4		1				○		1							
小計(112科目)	—	0	172	0	—	—	—	—	16	15	30	0	0	兼	59	
経済学副専攻	ミクロ経済学Ⅰ	2・3・4		2		○								兼	1	
	ミクロ経済学Ⅱ	2・3・4		2		○								兼	1	
	マクロ経済学Ⅰ	2・3・4		2		○								兼	1	
	マクロ経済学Ⅱ	2・3・4		2		○								兼	1	
	社会保障論Ⅰ	3・4		2		○								兼	1	
	社会保障論Ⅱ	3・4		2		○								兼	1	
	環境経済論Ⅰ	3・4		2		○								兼	1	
	環境経済論Ⅱ	3・4		2		○								兼	1	
	経営学総論Ⅰ	2・3・4		2		○								兼	1	
	経営学総論Ⅱ	2・3・4		2		○								兼	1	

科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			専任教員配置					備考			
			必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手				
副専攻	会計学総論Ⅰ	2・3・4		2		○									兼	1	
	会計学総論Ⅱ	2・3・4		2		○									兼	1	
	流通概論Ⅰ	2・3・4		2		○									兼	1	
	流通概論Ⅱ	2・3・4		2		○									兼	1	
	簿記論Ⅰ	2・3・4		2		○									兼	1	
	簿記論Ⅱ	2・3・4		2		○									兼	1	
	事業戦略論	3・4		2		○									兼	1	
	組織戦略論	3・4		2		○									兼	1	
	経営財務論Ⅰ	3・4		2		○									兼	1	
	経営財務論Ⅱ	3・4		2		○									兼	1	
	法学副専攻																
	民法(総則)Ⅰ	2・3・4		2		○									兼	1	
	民法(総則)Ⅱ	2・3・4		2		○									兼	1	
	民法(物権)Ⅰ	2・3・4		2		○									兼	1	
	民法(物権)Ⅱ	2・3・4		2		○									兼	1	
	民法(債権総論)Ⅰ	2・3・4		2		○									兼	1	
	民法(債権総論)Ⅱ	2・3・4		2		○									兼	1	
	商法(総則・商行為)Ⅰ	2・3・4		2		○									兼	1	
	商法(総則・商行為)Ⅱ	2・3・4		2		○									兼	1	
	商法(会社法)Ⅰ	2・3・4		2		○									兼	1	
	商法(会社法)Ⅱ	2・3・4		2		○									兼	1	
	刑法(総論)Ⅰ	3・4		2		○									兼	1	
	刑法(総論)Ⅱ	3・4		2		○									兼	1	
	経済法Ⅰ	3・4		2		○									兼	1	
	経済法Ⅱ	3・4		2		○									兼	1	
	労働法Ⅰ	3・4		2		○									兼	1	
	労働法Ⅱ	3・4		2		○									兼	1	
	消費者法Ⅰ	3・4		2		○									兼	1	
	消費者法Ⅱ	3・4		2		○									兼	1	
	社会・福祉学副専攻																
	社会福祉原論Ⅰ	2・3・4		2		○									兼	1	
	社会福祉原論Ⅱ	2・3・4		2		○									兼	1	
	公的扶助論Ⅰ	2・3・4		2		○									兼	1	
	公的扶助論Ⅱ	2・3・4		2		○									兼	1	
	児童福祉論Ⅰ	2・3・4		2		○									兼	1	
	児童福祉論Ⅱ	2・3・4		2		○									兼	1	
	老人福祉論Ⅰ	2・3・4		2		○									兼	1	
	老人福祉論Ⅱ	2・3・4		2		○									兼	1	
	地域福祉論Ⅰ	3・4		2		○									兼	1	
	地域福祉論Ⅱ	3・4		2		○									兼	1	
	社会保障論Ⅰ	3・4		2		○									兼	1	
	社会保障論Ⅱ	3・4		2		○									兼	1	
	介護概論Ⅰ	3・4		2		○									兼	1	
介護概論Ⅱ	3・4		2		○									兼	1		
障害者福祉論Ⅰ	3・4		2		○									兼	1		
障害者福祉論Ⅱ	3・4		2		○									兼	1		
社会調査法Ⅰ	3・4		2		○									兼	1		
社会調査法Ⅱ	3・4		2		○									兼	1		
観光学副専攻																	
観光学概論Ⅰ	2・3・4		2		○									兼	1		
観光学概論Ⅱ	2・3・4		2		○									兼	1		
観光行動論Ⅰ	2・3・4		2		○									兼	1		
観光行動論Ⅱ	2・3・4		2		○									兼	1		
観光人類学Ⅰ	2・3・4		2		○									兼	1		
観光人類学Ⅱ	2・3・4		2		○									兼	1		
障害者旅行論Ⅰ	2・3・4		2		○									兼	1		
障害者旅行論Ⅱ	2・3・4		2		○									兼	1		
観光地理Ⅰ	2・3・4		2		○									兼	1		
観光地理Ⅱ	2・3・4		2		○									兼	1		
旅行業務論(法令及び国内旅行実務)	3・4		2		○									兼	1		
旅行業務論(約款)	3・4		2		○									兼	1		
旅行業務論(海外旅行実務)	3・4		2		○									兼	1		
旅行業務論(運賃)	3・4		2		○									兼	1		
旅行業務論(CRS)	3・4		2		○									兼	1		
小計(71科目)		—	0	142	0		—		0	0	0	0	0	兼	71		
自由選択科目	教育実習(事前指導)	3			1			○									
	教育実習(中学校)	4			4			○			1				兼	1	
	教育実習(高等学校)	4			2			○							兼	1	
	小計(3科目)	—	0	0	7		—		0	0	1	0	0	兼	2		
	合計(331科目)	—	17	518	7		—		87	43	62	0	0	兼	573		

科目 区分	授 業 科 目 の 名 称	配当年度	単位数			授業形態			専任教員配置					備 考
			必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手	
	学位又は称号		学士(スポーツ健康科学)			学位又は学科の分野			スポーツ健康科学					
	卒業要件及び履修方法					授業期間等								
	教養科目16単位以上、情報科目2単位以上、外国語科目8単位以上、演習16単位、必修科目16単位、スポーツ実技科目10単位以上、共通科目12単位以上、コア科目20単位以上、その他に、副専攻科目、自由選択科目または開講科目の中から24単位以上修得し、合計124単位以上修得すること。 (履修科目の登録の上限：48単位(年間))					1学年の学期区分			2学期					
						1学期の授業期間			15週					
						1時限の授業時間			90分					

授 業 科 目 の 概 要			
(大学院スポーツ健康科学研究科 スポーツ科学専攻)			
科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備 考
共通科目	スポーツプロモーション特講	<p>スポーツ健康科学及びスポーツプロモーションへの導入として、その問題点と方策を、研究分野の異なる3人の専任予定教員と論議し、それを基にして地域におけるスポーツプロモーションのあり方を考える。</p> <p>(オムニバス方式/全15回)</p> <p>(① 高松 薫/5回担当) 健康体力論の視点より、生涯スポーツプロモーションの意味・施策、組織運営・人材育成、および研究などの問題点と方策を論議し、地域における生涯スポーツプロモーションのあり方を考える。</p> <p>(② 上野裕一/5回担当) スポーツコーチング論の視点より、競技スポーツプロモーションの意味・施策、組織運営・人材育成、および研究などの問題点と方策を論議し、地域における生涯スポーツプロモーションのあり方を考える。</p> <p>(⑤ 田崎健太郎/5回担当) スポーツ行財政論の視点より、スポーツプロモーションの意味、政策・行財政、組織運営・人材育成、および研究などの問題点と方策を論議し、地域におけるスポーツプロモーションのあり方を考える。</p>	オムニバス方式 3人担当
		<p>スポーツ健康科学及びスポーツプロモーションに関わる研究課題、研究方法等を、研究指導担当予定教員がそれぞれの専門分野の視点から論じ、それを基にして地域における生涯スポーツ及び競技スポーツのプロモーション研究のあり方を論議する。</p> <p>(オムニバス方式/全15回)</p> <p>(① 高松 薫/3回担当) 子どもから高齢者までの健康者及び競技者の体力・運動能力の実態を概観し、これからの地域における生涯スポーツ及び競技スポーツのプロモーションのあり方やリーダーの役割などについて考える。</p> <p>(② 上野裕一/2回担当) 「メタ・コーチング」理論を中心としたコーチング理論について教授する。加えて、地域における競技スポーツのコーチングの実践について解説するとともに、これらの現象に関して「研究する」という立場について教授する。</p> <p>(④ 小峯 力/2回担当) 救急救命を主たるテーマとした先行文献、資料収集や研究方法の検討を行い、とくに救急医療の社会的問題を背景とした生命倫理などにも関心を向け、地域における生涯スポーツ及び競技スポーツの救急救命のあり方を検討する。</p> <p>(⑤ 田崎健太郎/3回担当) 地域スポーツのための人材育成に焦点をあてる。まず地域スポーツをデザインする枠組みを検討し、その上で、スポーツに関する政策立案能力のある人材育成のための研究課題を提示する。</p> <p>(⑥ 山中邦夫/2回担当) チームスポーツ(サッカー型)のゲーム分析法に関する内外の実例を紹介するとともに、今後のゲーム分析法の方向性について検討する。また、地域スポーツのゲーム分析の在り方についても扱う。</p> <p>(⑧ 大槻 毅/1回担当) 中高齢者の健康の維持増進における生涯スポーツの効果を概観し、これからの地域における生涯スポーツプロモーションのあり方やリーダーの役割などについて考える。</p> <p>(⑪ 高松潤二/1回担当) ビデオカメラを用いた各種のパフォーマンス分析法について紹介し、プロモーションリーダーが具備すべきスポーツ技術評価のための実践的な知識や技法の習得を目指す。</p> <p>(⑬ 山田睦雄/1回担当) コンタクトスポーツで発生する後遺症や死亡事故につながる脊髄損傷や急性硬膜下出血などの重症頭部外傷の病態把握と受傷起点について先行研究から文献的情報収集と考察および検討を行うとともに、それらの予防方法に対しても考察・検討し、地域スポーツの指導者として安全確保について考える。</p>	オムニバス方式 8人担当

科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
共通科目	研究方法演習Ⅱ	<p>スポーツ健康科学及びスポーツプロモーション研究に関わる一連の手順【①研究テーマの決定、②研究計画の立案、③研究の実施、④研究結果の整理と考察、⑤研究の結論の提示、⑥今後の研究課題の提示、⑦研究発表、など】を、研究指導担当予定教員の専門分野を中心に討議し、修士論文作成の準備を行う。院生は、修士論文のテーマと関係する教員の授業を受ける。</p>	個別授業 8人担当
		<p>(① 高松 薫／15回担当) 子どもから高齢者までの健常者及び競技者の体力の実態、及び体力づくりの環境(国や自治体の施策、指導者・仲間、施設・設備、行事、財源)等の実態を文献等を基にして分析するとともに、地域における生涯スポーツ及び競技スポーツのプロモーションに結びつく体力づくりの方法、体力づくり環境の整備のしかたに関わる研究方法について討議する。</p>	
		<p>(② 上野裕一／15回担当) 修士論文の作成のために、各種競技種目別の長期選手育成計画(Long Term Players Development)について事例を取り上げ、地域における活動を含めた調査・研究を行う。特に、次の視点から競技種目のコアとなる原則を探る。 1) LTPDモデル開発のためのバックグラウンド 2) LTPDモデルの開発計画のための必須要件 3) 選手育成のパスウェイの開発 4) LTPDマトリクスを用いた具体的プログラムの策定 5) 実行計画のプランニング</p>	
		<p>(④ 小峯 力／15回担当) 地域における生涯スポーツ及び競技スポーツの救急救命から、救急医療の社会的問題も背景とした生命倫理(自殺等も含む)を踏まえ、体育・スポーツ教育分野における論文作成の特徴を明確にしていく。特に臨床救急における研究対象者等の特徴的な研究に関する資料収集と内容検討、及び諸外国の研究にも取り組むこととする。</p>	
		<p>(⑤ 田崎健太郎／15回担当) 地域に関するスポーツ行財政論・スポーツ政策論の立場から修士論文を作成することを課題として論議をすすめる。 講読する資料は、国及び地方自治体のスポーツ振興計画を基本文献とし、その他の資料・論文等は、修士論文に関連したものを収集し、選択することとする。 行財政論・政策論的研究は、政治・経済等の影響を受けることも多々あるので、この点も視野に入れて論議をすすめる。</p>	
		<p>(⑥ 山中邦夫／15回担当) 内外の文献を参考にしながら、特にチームスポーツ(サッカー型)を対象とし、子どもから大人に至る各カテゴリー別の、試合局面における個人、グループ、チームのパフォーマンス分析(Match analysis)方法を習得する。また、新しい方法を考案し、実際に試すことにより、パフォーマンス向上に資する試合分析法確立を目指すとともに、地域に即したトレーニング内容や計画法についても論ずる。</p>	
		<p>(⑧ 大槻 毅／15回担当) 中高齢者のスポーツの実施状況や生涯スポーツの効果及び指導方法等について、主に身体的健康との関わりに着目して文献等により分析する。また、それらを基に、地域における中高齢者の生涯スポーツプロモーションのあり方について考え、それに結びつく研究方法について討論する。</p>	
		<p>(⑩ 高松潤二／15回担当) スポーツバイオメカニクスにおける研究方法(動作分析法、床反力計、筋電図、等)について、各種の著書や文献を手がかりにして学習する。また、それら研究方法を活用して実際にヒトの動きを計測・分析するための計画立案や実験を行い、さらには結果や考察をまとめたレポートの作成までを総合的に実習することによって、研究活動の全体について自らデザインし実践できる能力を養う。</p>	
		<p>(⑬ 山田睦雄／15回担当) 障害者スポーツから高齢者スポーツまでに至る地域におけるスポーツ活動全般のメディカルチェックについて、外傷・障害予防の観点から文献的な情報収集と考察検討を行う。それ以外にスポーツ復帰に関するアスレティック・リハビリテーションについて文献的検討を行う。上記に対して新たな仮説をうち立て、それらに対して生理学・解剖学的な考察をもとに実験モデルを作成し、データを収集し、結果の評価および考察を行い報告書(研究発表)の作成へとつなげ、地域スポーツ活動での怪我の予防および復帰に役立つ研究ができるようにする。</p>	

科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
共通科目	研究指導	研究指導担当予定教員が各教員のもとで修士論文を作成する院生の指導を行う。	個別授業 8人担当
		① 高松 薫 おもにスポーツ体力論に関する研究指導を行う。	
		② 上野裕一 おもにスポーツコーチング論に関する研究指導を行う。	
		④ 小峯 力 おもにスポーツ救急教育論に関する研究指導を行う。	
		⑤ 田崎健太郎 おもにスポーツ行財政論に関する研究指導を行う。	
		⑥ 山中邦夫 おもにスポーツ戦術論に関する研究指導を行う。	
		⑧ 大槻 毅 おもに中高年齢者スポーツ論に関する研究指導を行う。	
		⑪ 高松潤二 おもにスポーツ技術論に関する研究指導を行う。	
		⑬ 山田陸雄 おもにアスレティックケア論に関する研究指導を行う。	

科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
共通科目	生涯スポーツ企画・運営法演習	地域におけるスポーツ活動を実際に視察し、また諸調査方法を用いてプランナー及び住民の各サイドからの資料を収集し、演習の討論の材料とする（調査方法については、自学自習とする）。また、伝統的なスポーツ振興の実践の過程（plan, do, check）で貢献してきた内容や課題についても関連文献をもとに検討する。これらの作業を通して、新たな発想に基づいた地域におけるスポーツプロモーションのためのモデルづくりに努力し、その上で、スポーツ事業のあり方を学ぶ。	
	スポーツネットワーク運営法演習	スポーツの機能はコミュニティの形成や人間形成、社会形成など多岐にわたっているが、地域によって組織づくりや運営方法は異なる。そこで、そうした組織内及び組織間の関係性を「ネットワーク」として捉えることによって、縦軸（時間軸）と横軸（人間関係）について明らかにする。さらに、スポーツプロモーションリーダーとしての資質を高めるために、実際のスポーツ・イベントに参加し、理論と実際の結合点について理解を深める。授業は、講義、資料等の発表、実習、討議等を織り交ぜて行う。	
	コミュニケーション法演習	地域におけるスポーツの指導者は、これからの生涯スポーツを見据え、幅広い対象者とのコミュニケーションが必要となってくる。そのためにも指導者には普段からのコミュニケーションスタイルの確立が不可欠である。演習プログラムでは、実技を中心に「あいさつ」や「笑顔」のトレーニングなど個人のスキルアップはもとより、集団内でのコミュニケーションやディスカッションの理論と技術を習得する。またスポーツ場面における対話法や交流分析も導入する。	
	子どもスポーツ指導法演習	子どもの心と体の現状と課題、日常生活や学校生活全般の現状と課題、家庭や地域でのスポーツ活動の現状と課題及び学校での体育授業、自由時間活動、運動部活動など学校教育活動全体におけるスポーツ活動の現状と課題を探り、子どものスポーツに対する家庭、地域、学校の役割及び国や自治体の役割を論議し、たくましい心と健やか体をもった子どもを育成するスポーツ指導法について演習する。	
	中高齢者スポーツ指導法演習	中高齢者を対象に安全かつ効果的なスポーツ指導を実施するためには、根拠のあるプログラム作成とその実践指導を行わなくてはならない。本演習では、受講者自身が中高齢者スポーツ指導に関連する学術論文やその他の資料をまとめて発表し、それを基に指導を実演したり、それらの知見を地域の生涯スポーツプロモーションに取り入れる方法等について議論を行ったりする。また、学術論文等の内容をより深く理解したり研究方法を学んだりするために、それらを模した実験を行って、得られたデータについて議論を行うこともある。	
	競技スポーツ企画・運営法演習	オリンピック大会やワールドカップなどの国際大会から、市民マラソンにいたる競技会の企画運営について、関係する担当者などへのインタビューを実施しながら調査し、競技会を企画運営するためのステイクホルダー、スポンサーシップ、放映権、リスクマネジメント、普及などの観点から、地域における競技スポーツ大会を活性化させるためのパッチャルスポーツ選手権大会を企画立案する。	
	スポーツコーチング法演習	ワークショップやロールプレイを中心にプレイヤーとコーチ（指導者）の関係性について明らかにすると同時に、プレイヤーとコーチ（指導者）それぞれの立場の違いについて明らかにする。その上で、「メタ」の視点から指導実践方法に関して議論する。その際、次の要素について検討を加える。 1) コーチの役割、2) コーチの属性、3) コーチングプログラム、4) 学習様式と学習過程、5) 各種コーチング実践法、6) コーチングの評価法	
	技術トレーニング法演習	スポーツの実践主体である競技者や指導者の視点から、スポーツトレーニングの過程で必然的に生じるスポーツ技術のトレーニングについて、一般的な原理・原則と実際面での技術の評価・診断法やトレーニングのデザインのあり方について学習する。また、具体的な技術トレーニング法のいくつかを経験することによって、新たなトレーニング手段を創出する等の地域スポーツの指導者に必須の実践的能力を養成する。	
	戦術トレーニング法演習	戦術トレーニングに関する内外の文献をもとに、自分たちの身近に存在する実際の指導実践における、戦術トレーニングに関する課題や問題点およびトレーニング全体との関連性等を明らかにするとともに、地域における現状と今後のよりよい戦術トレーニングの在り方を追及することをねらいとして演習する。	
	体力トレーニング法演習	各種の体力トレーニング方法や体力測定評価方法を文献（啓発書、専門書、論文等）、実習、見学等を通して理解するなかで、それぞれの特徴、活用のしかた、問題点を探る。また、各自が関心のあるスポーツ種目を対象にして発育段階別、能力別にトレーニングプログラムを作成し、その特徴、期待される効果、問題点等を探る。これらを通して、地域におけるそれぞれの対象に応じた望ましい体力トレーニングのあり方を考える。	
	スポーツ救急教育法演習	本講義は、地域における生涯スポーツ及び競技スポーツの一次救命（BLS）教育の重要性から、スポーツ救急現場の指導的立場にある者の救急対応（判例）を分析し、その実践を習得していくものである。また、スポーツBLS教育の重要性を検討し、新たなスポーツ現場における生命倫理（選手生命も含む）のあり方を課題とし、保健体育科目にて取り扱う「救急処置」項目についても、その新たな生命教育の体系化を検討していく。さらに救急対応におけるPTSD対策など、ストレスマネジメントについても包含するものとする。	
	スポーツコンディショニング法演習	地域スポーツや学校体育を含むスポーツ現場における、具体的なコンディショニング方法について検討する。各々の対象や運動レベル、競技特性などを考慮した上で、疲労回復や傷害予防、パフォーマンス改善のためのコンディショニング方法をプログラミングし、それぞれの対象や目的に応じたコンディショニング方法のあり方を学ぶ。	

科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考	
共通科目	アスレティックケア法演習	本講では、各種スポーツ（障害者スポーツも含む）における外傷・障害に対する予防、応急処置そして競技復帰までのアスレティック・リハビリテーションについて実習形式の実技指導を行うことを目的とする。外傷・障害予防では、各年代でのメディカルチェックの手技の習得する。外傷・障害予防について基礎知識をもとに評価法を習得する。現場での応急処置では、ファーストエイドから重傷事故時の対応を習得する。アスレティック・リハビリテーションでは、ゴール設定と評価法を含めた計画書の作成と必要とされる手技を習得する。これらの実習を通して、地域スポーツ活動での怪我の予防および復帰に役立てることができるようになる。		
専門科目・生涯スポーツ領域科目	A群	スポーツ文化論特講	世界中で行われているスポーツは、気候・風土・宗教・習慣などによって規定されている。また、スポーツを有する社会組織には、当該地域の価値観や社会的地位が如実に現れている。そうした、スポーツの社会的機能や文化的価値について、「文化複合」、「機能構造論」、「象徴論」、「文化変容」などの概念を用いて教授する。	
		スポーツ教育論特講	子どもの心と体の現状と課題、日常生活や学校生活全般の現状と課題、家庭や地域でのスポーツ活動の現状と課題及び学校での体育授業、自由時間活動、運動部活動など学校教育活動全体におけるスポーツ活動の現状と課題を探り、自治体、学校、スポーツ系大学、総合型地域スポーツクラブ、スポーツNPOなどが連携した地域におけるスポーツ教育のあり方及びスポーツプロモーションのあり方を考える。	
		健康社会論特講	健康社会論は、健康・病気と保健・医療の領域における問題の解明・解決に、主に健康科学・社会学の理論と方法を用いて寄与しようとする学問分野である。健康問題の背景となる生活習慣と健康との関連について科学的根拠をもとに理解を深めるとともに、実証研究を進めようとする場合に重要になってくる理論・概念と測定・尺度、および研究デザインやデータ解析手法を学ぶことを目標とする。主要なテーマについての講義、さらに実証研究論文の抄読・講読・討論を通じて理論や方法を学ぶ。	
	B群	スポーツマネジメント論特講	本講義では、複数の人間が組織をつくり、協同し、事業を企画・立案し、スポーツを財・サービスとして商品化していく過程を概説する。また、スポーツ経営体が多様化しており、非営利的な経営体と営利的な経営体とでは、そのおかれた環境に違いが見られるので、各種経営体の実践を事例としながら、マネジメントの相違等についても論述する。	
		スポーツ行財政論特講	本講義は、実証主義的な行財政論を指向する。このことでの中心課題は、住民志向の行財政サービスの方略を検討することにある。手始めに、中央・地方政府のスポーツ振興計画を概観し、これらがスポーツ振興のための方略として、どのような成果を上げてきているか、各種資料を分析しながら、概説する。また、住民志向の行財政が引き起こしがちな問題点についても考えていく。なお、政治・行政の時代的な流れ・方向性を前提に検討することは当然である。	
		ヘルスマネジメント論特講	本科目では、小児期、青年期、壮年期から高齢期にわたる一連のライフサイクルにおける健康問題について考え、健康科学分野における基礎的研究基盤について学ぶ。また、健康問題の背景となるわが国のヘルスマネジメントの現状について科学的根拠をもとに理解を深めるとともに、地域社会との関連を中心として生活習慣病予防の取り組みや特定健診制度、健康増進施策、介護予防施策など、自治体における具体的な取り組みについて学び、生涯にわたる健康づくりの方法論について教授する。	
	C群	スポーツ産業論特講	スポーツの普及・振興を担う部門は、国や自治体などの公共部門、競技団体や体育協会などの準公共部門、民間企業や市民団体などの民間部門など多岐にわたる。なかでもスポーツ産業を中心とした民間の役割は次第に大きくなっており、スポーツ産業と地域経済の活性化との関係も重要視されはじめている。本講義は、スポーツ産業の現状と課題、スポーツの産業とスポーツ文化の関係、スポーツ産業と地域社会・地域経済の関係などを概説し、スポーツの普及・振興とスポーツ産業の望ましい関係の構築に必要な課題解決能力を養うことを目的とする。	
		スポーツNPO組織・運営論特講	地域とスポーツの振興においてNPOは多くの役割を果たすことができる。実際に、各NPOは指導者と競技者やスポーツ愛好者、支援者を様々な形で組織化し様々な地域のスポーツ活動を生み出している。NPO運営のポイントは市民の参画と、関係機関との連携にある。また、非営利とはいえ、持続する組織にするには、ビジネスの発想や組織ガバナンスも欠かせない。この科目では、地域のNPOの活動事例をもとにNPOの設立やマネジメントの具体的手法を学ぶ。	
	D群	レクリエーションスポーツ論特講	現代地域社会におけるレクリエーションとしてのスポーツ活動は、楽しみや心身の健康、住民どうしの交流などに寄与しうる有意義な過ごし方である。本科目では、地域のレクリエーションスポーツにおける人々の取り組みや活動の実態について理解するとともに、地域の自治体、NPO、企業等が提供するレクリエーションスポーツ関連の諸施策やサービスの効果について検討し、地域におけるこれからのレクリエーションスポーツ振興のあり方を展望する。	
コミュニケーション論特講		本学が目指す地域に根ざしたスポーツの指導者は、生涯スポーツを見据え、幼児から高齢者まで幅広い対象者とのコミュニケーションが必要となってくる。これらリーダーの育成には、スポーツという場面はもとより、日常生活におけるコミュニケーションスタイルの確立が不可欠である。ここでは、自己理解や他者理解を踏まえたコミュニケーションマインドとそれらを的確に表現するコミュニケーションスキルの理論と技術を習得し、特に「聴く」力の強化を図る。		
セルフコントロール論特講		心と体の状態をベストなコンディションに調整することは、スポーツに限らず仕事や勉強においても、健康を維持し能力を十分に発揮するために重要なことである。本講義では、自律訓練法や東洋の身体技法を活用した「身心のセルフコントロール」に関する理論と技法を学ぶことを通じて、身体を適切に活用して心を最適な状態に調整するセルフレギュレーションのスキルを身につけるとともに、スポーツ競技者や地域の人々の健康増進に役立てる指導法を学ぶ。		

科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
専門科目・生涯スポーツ領域科目	子どもスポーツ論特講	子どもの体や心の現状と問題点、日常生活や学校生活全般の現状と問題点、家庭や地域でのスポーツ活動の現状と問題点、および学校での体育授業、自由時間活動、運動部活動の現状と問題点を探り、子どものスポーツに対する家庭、地域、学校の役割、および国や自治体の役割を論議し、たくましく健やかに生きていくための子どものスポーツのあり方について考える。	オムニバス方式 2人担当
		(オムニバス方式/全15回)	
		高松 薫 (8回担当) 上記のうち、おもに家庭や地域におけるスポーツ活動の現状と問題点、方策等について論議する。	
		柴田一浩 (7回担当) 上記のうち、おもに学校体育・スポーツに関わる現状と問題点、方策等について論議する。	
E群	中高齢者スポーツ論特講	地域の生涯スポーツプロモーションリーダーには、日々積み重ねられる研究成果や国および地域の情勢(疾病構造や行政の健康づくり政策等)の変化について、生涯に亘って学び続ける態度と能力が求められる。本講では現在の中高齢者スポーツを主に生理学的な立場から学ぶと同時に、それに関連する学術論文やその他の資料を題材に取り上げて、積極的に学ぶ態度と、必要な情報を取捨選択して内容を理解する能力を身に付けることを目標とする。	
	障害者スポーツ論特講	年齢、性別、障害のあるなしに関わらず参加できる、総合型地域スポーツクラブのNPO法人スマイルクラブでの実績をもとにして、これからのスポーツのあり方を模索するとともに、障害をもつ人へのスポーツ指導のあり方を学ぶ。特に「運動が苦手な子の教室」を開催している経験から、発達障害をもつ子どもたちの様々な特徴に対する運動指導について学び、現場につながる指導技術を身につける。さらに障害を持つ子どもの受け入れ先が少ない現状に対して、このような教室を立ち上げる実践へ結びつけ、多くの地域に広げること、学校体育へのサポートとなることを目標とする。	
	フェアプレイ論特講	スポーツの中核にあるのがフェアプレイの精神である。フェアプレイの視点から、本講義は、体育やスポーツにまつわる諸問題について、あるべき姿を探究し、地域のスポーツプロモーターとして貢献できるような価値観の形成を目指している。具体的には、ドーピング、ジェンダー、環境問題だけではなく、地域で起こる日常的なゲーム中の意図的的反則、誹謗中傷などの言葉による暴力、審判員の判定ミスなどの事例を取り上げ、フェアプレイ論を展開していく。	
A群	スポーツ組織・運営論特講	現代の競技スポーツは、個人やチーム単体での努力では高い競技力を得ることが難しくなっており、国や地域の行政を巻き込んだ組織での強化が不可欠となっている。そこで、本講義では国内外におけるスポーツ組織の構造とそれらの組織が行っている施策を、とくに競技力向上の観点から学ぶ。それらをベースとして、競技力向上ならびにスポーツ振興における地域の役割について考え、地域におけるスポーツ・プロモーションリーダーとしての資質を身につける。	
	スポーツ情報・戦略論特講	国内外のスポーツに関するインフォメーション(情報)の収集から、組織やチームの意思決定者がその情報を用いて判断し、行動するインテリジェンス(分析)のサイクルについて、中央組織の取り組みを参考に概説する。また、これらをもとに地域スポーツをプロモーションするための組織作りや人的資源の活用について、学生自らが戦略的な観点から基づいた計画をプレゼンテーションする。	
	スポーツコーチング論特講	スポーツコーチングの本源的意味について歴史的、社会的背景を踏まえた上で、指導者としていかに選手を育成すべきか、指導者自身どこに向かっていくのかといった、指導者のコーチングフィロソフィーについて、コーチングの戦略モデルを用いて理論的に考える。さらに、コーチングに不可欠なプレゼンテーションやコミュニケーションスキルについて、学部レベルとは異なり、より高いレベルでの実際の現場で用いることのできる内容に関して教授する。	
B群	スポーツトレーニング論特講	スポーツトレーニングを効果的に推進するためには、適切な目標と段階的な課題設定(目標論)、課題解決方法や手段の選択および創造(手段論)、時間資源に配慮した計画立案(計画論)、優れた実践活動(実践論)、経過および効果の測定と評価診断(測定評価・診断論)の一連のサイクルを循環させる必要がある。また、実施するスポーツ運動の構造設計(運動構造論)についても、深く理解しておく必要がある。本講義では、このトレーニングサイクルを循環させるための理論と方法論について概説し、実際のスポーツトレーニング現場で役立つ実践能力を高め、地域のスポーツプロモーションリーダーを養成していく。	

科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
専門科目・競技スポーツ領域科目	運動質論特講	本授業では、スポーツで行われている運動を客観的な対象として分析するのではなく、運動を覚えようとする学習者と運動を覚えさせたい指導者の立場から質的に分析し、量的な指標が存在しない運動感覚に支えられた身体の知恵にアプローチする。特に、一流競技選手における技術・戦術の実践知およびそれが獲得されてきた過程について深く考察し、地域で実施されている個別のスポーツ種目の運動指導に応用できる実践的指導能力を身につける。	
	スポーツ技術論特講	力学的・バイオメカニクスの原理・原則を基礎に置きながら、各種のスポーツにおいて見られる優れた運動技術に内在する特長やメカニズムについて解説するとともに、運動技術を種々の観点から分析・評価できるようなプロモーションリーダーとしての「観察眼」の養成につながる知識の獲得を目指す。さらに、スポーツバイオメカニクスにおいてマイルストーンとなっている重要文献を紹介し、「ヒトの動きの力学的理解」を深める。	
	スポーツ戦術論特講	スポーツの戦術に関して、特にチームスポーツを中心に、その言葉の由来、戦術の定義、戦術の意義、戦術と戦略、システムとスタイル、戦術の歴史・変遷、戦術と競技力構成因子および戦術トレーニングの一般原則等について、地域スポーツのプロモーションを考慮しながら、またチームパフォーマンスの向上に結びつけながら論ずる。	
D群	スポーツ体力論特講	スポーツ競技力の向上に結びつく体力トレーニングのあり方、すなわちトレーニング目標の決め方、トレーニング手段の準備のしかた、トレーニング計画のつくり方、トレーニング実践内容のまとめ方、トレーニング効果の評価のしかたなどについて論議するとともに、スポーツ種目差、発育段階差、性差、能力差等、対象に応じた体力トレーニングプログラムの作成のしかたについて論議する。これらを通して、地域におけるスポーツプロモーションリーダーの役割を考える。	
	スポーツ心理論特講	地域におけるスポーツ実践を考える際に関連すると思われる心理的諸問題を、まず運動学習論的立場から、運動学習のプロセス、運動技術の習熟過程の分析、運動学習とコーチング、スポーツ指導と動機づけ、スポーツ場面での社会的勢力から見た学習者と他者との対人関係、等に関して論究する。さらに、競技スポーツをプロモーションする立場からスポーツパフォーマンスの安定的発揮を目指して各種心理的スキルトレーニングや心理的サポートについて、理論的背景をも理解する中でそれら実践の在り方をディスカッションする。	
	スポーツ栄養論特講	競技者へのコーチングの一角を担う栄養サポートのための栄養・食生活の基礎知識を学習する。また、健康の維持増進のための運動指導の際に把握すべき対象者の栄養状態および食生活状況を理解するための運動と栄養と食生活の関係を学ぶ。なお、食生活は地域環境の影響を大きく受けることから、地域の食環境特性と食生活および栄養素等摂取状況の関連を理解する。これらを基礎として、運動・スポーツ実施者の栄養素等摂取および食生活のあり方を事例を取り上げて学習し、栄養サポート力を養成する。	
E群	スポーツ救急教育論特講	本学研究科のベースとなるスポーツ健康科学部の教育理念は「人間力」と「生命の尊厳」である。そこで本講義は、救急医学（社会復帰率の可能性）の最前線である一次救命（Basic Life Support）の重要性から、地域における生涯スポーツ及び競技スポーツの指導的立場にある者（Bystander）における責務と使命を明確に論じていく。そして救急救命における最も重要な事故を未然に防ぐ危機管理能力（リスクマネージメント）を研鑽し、生命尊厳を中心とした人間力を深めていくことにある。	
	スポーツコンディショニング論特講	地域スポーツや学校体育を含むスポーツ現場におけるコンディショニング方法について幅広い視点から検討する。パフォーマンスアップ、疲労回復、傷害予防などの観点から、具体的なコンディショニング方法を目的や対象別に比較検討を行う。また、年間を通じたコンディショニング計画をプログラミングできる能力を養成する。	
	アスレティックケア論特講	本講では、各種スポーツ（障害者スポーツも含む）における外傷・障害に対する予防、応急処置そして競技復帰までのアスレティック・リハビリテーションについて講義し、それらの知識を深めることを目的とする。外傷・障害予防では、各年代でのメディカルチェックの重要性について講義する。外傷・障害予防では生理学およびバイオメカニクスに則った予防について講義する。現場での応急処置ではファーストエイドから重傷事故時の対応について講義する。アスレティック・リハビリテーションでは病態に合わせてリハビリを施行する際のポイントについて講義する。本講により、地域スポーツ活動を実践する際に発生しうる怪我の予防や対処法の知識を得ることができるようにする。	